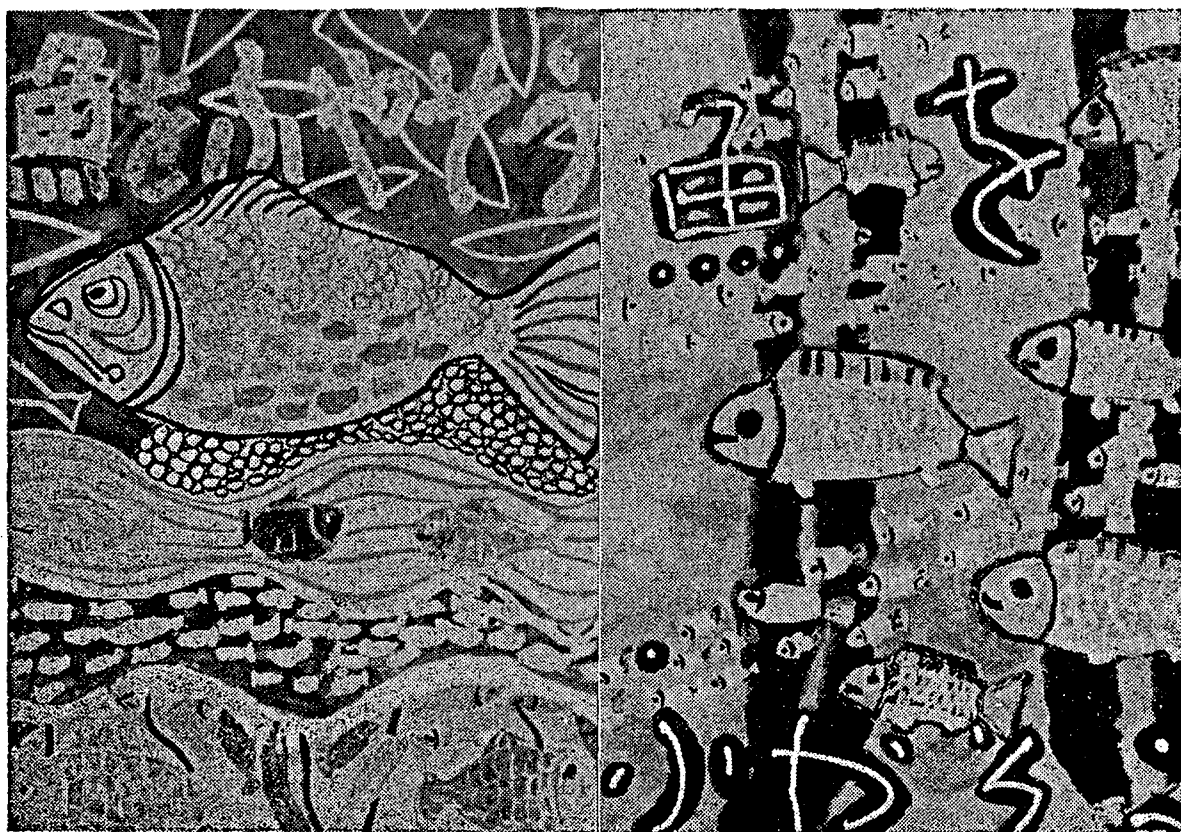


第五七号昭和卅六年五月十五日発行
毎月十五日一回発行 一部 十円
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

水拓

五 月



兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人、兵庫県水産業改良普及協会

漁業調査船白鳥丸竣工

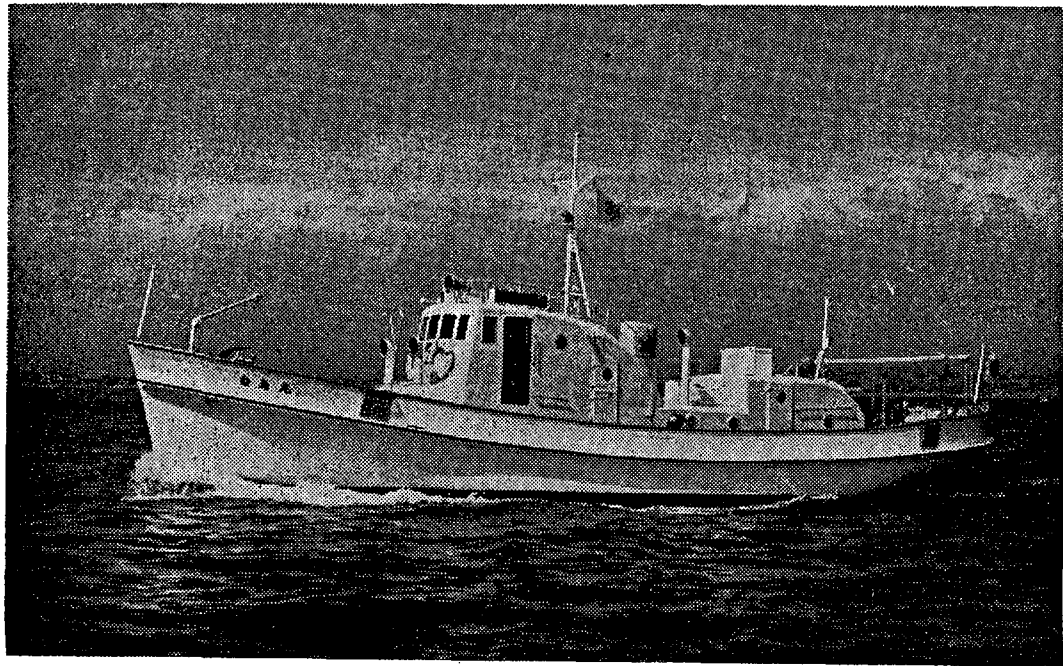
県立水産試験場では、昭和三十三年十月白鷗丸を廃船にして以来、内海専属の漁業調査船として明石市からはやとり丸を備船していたが、昭和三十五年度当初予算でその代船建造が認められ、次の過程を経て白鳥丸が誕生し、五月早々から大阪湾及び播磨灘にその麗姿を浮べ、試験調査業務に活躍している。

- 三五年二月 部内検討原案作成
- 〃 四月 建造審議会設置
- 〃 七月 設計図、仕様書完成

- 〃 八月 審議会で再検討
 - 〃 九月 入札、着工
 - 三六年三月 進水、竣工
- なお、建造費の概要は次のとおりである。

| | |
|-----------|---------|
| 船殻及び魚倉工事 | 三六三万円 |
| 船体艤装及び扁具 | 一六〇万円 |
| 主機及び軸系装置 | 二九二万円 |
| 補機及び機関室艤装 | 九七万円 |
| 電気工事 | 五二万円 |
| その他施設及び備品 | 二〇三万円 |
| 一般管理費及び雑費 | 三三万円 |
| 総工費 | 一、二〇〇万円 |

(文責者 竹末敏男)



| | |
|---------|----------------------|
| 長 | 17.50 m |
| 巾 | 4.03 m |
| 深 | 1.79 m |
| 総トン数 | 30.40 屯 |
| 主機関 | 高速ディーゼル175PS 過給機付 |
| 気筒数及び径 | 6×120mm |
| 補機及び発電機 | 10PS×5KW |

| | |
|-------|---|
| 最高速力 | 10.5 ノット |
| 経済速力 | 8.5 ノット |
| 航続距離 | 800 浬 |
| 造船所 | 明石市・宗田造船KK |
| 主機製作所 | 東京都・東京ボートKK |
| 主要設備 | 400 KC 精密魚群探知器 CK3型電気潮流計 M型2点式電気水温計 ケルビン型電動測探機 |

目次

| | |
|-------------------------|------|
| 漁業調査船白鳥丸竣工 | 1 |
| 水産資源保護運動月間 によせて | |
| 水試場長 井沢 康夫 | 2 |
| 漁業今昔 | |
| いわしの巻 | (13) |
| 平岡安民 | 3 |
| ある漁協職員の手帳 | |
| 楽 餓 鬼 帳 | 5 |
| 兵庫県下における 漁業経営体の構成概報 | |
| 農林省兵庫統計調査事務所7 | |
| 昭和三十六年一月・二月の 海面漁獲の概要 | |
| 農林省兵庫統計調査事務所8 | |

水産資源保護運動

月間によせて

水産試験場長 井沢康夫

五月は、水産資源保護月間である。

水産資源保護について、この際更めて深く認識し考えなおそうという月である。しかし又水産関係者だけでなく、水産物に依存する度合が高い我々日本人一般の人々にも、水産資源保護の重要性を認識して貰いたいのである。

とくに最近工業の発展は想像以上のテンポであって、漁場埋立、工業廃水等の問題は水産生物に影響しないでは、おかない現状ではなおさら一般の人々の水産を新しい目でみて貰いたいのである。

県における水産関係者は、この五月には、水産資源保護に関するポスターを県下から募集、少年少女の認識を深めるとともに、漁村を巡回して、資源保護の重要性を強調するの

を、年中行事としてきているわけであるが、その効果はほんとうに上っているであろうか。濫獲の声は昔から高く叫ばれ、ただ題目に過ぎなくなってしまうているのではないか、この際反省する必要がある。

資源保護の必要性については、今更その理由をここに記す必要はない。漁業者は日々の操業を通じて、身をもって感じていることは明かでありながら、その生活や周囲の環境が、資源保護を行い難いものとしていっているのではないだろうか。漁業法規は、資源保護のために細い規制を行っており、又漁業者間でも互に協定とか協約の形で、何とか資源保護を行うよう、紛争を起してまでも、努力を続けてきている。しかし現実には満足するまでには程遠い実情である。

資源愛護は、幼稚を愛護するといふことが、直ちに頭にうかぶが、

県下ではどの位幼稚魚が漁獲されているかという点、統計が不十分で推定の域を脱しないが、四五〇〇トン以上が漁獲されている。これは県下全漁獲高九〇、〇〇〇トンの五%に達し、これらの幼稚魚の内には、カレイ、タイ、ハモ、アナゴ、タコ、カニ等、所謂高級魚が大幅に含まれ、これらを大きく育て、漁獲すれば、重量にして数倍、価格にすれば、数倍から十数倍になることは確実であって、如何にも惜しい。漁業経営の面から互に考えなければならぬところであろう。

沿岸漁業は曲り角にきているといわれ、所得倍増論とからみ合せて、沿岸漁業構造改善対策が近く政府の施策として実施されようとしている。「獲る漁業から作る漁業へ」の転換は、沿岸漁業の近代化を進める場合どうしても、その方向へ進路を向けなければならなくなった。ここ数年間の内海における、ハマチブームはそれを物語る、県下のり養殖も本年度は二、〇〇〇万枚を上廻った。これらは「作る漁業」の「獲る漁業」への優越性を示したものであろう、水産業も漸次農業に近づきつ

つある。

しかしここにも問題はある、ハマチは種苗確保ということが業者の悩みの種である。人工的に種苗を造ることができれば問題はないのであるが、人工的種苗生産までは現在の技術では未だ不可能であって、なおその生産までには数年を要するであろう。

のり養殖についても本県漁場は埋立計画の中に入り、現漁場は近い将来、殆んどが埋立られる運命にある。どうしても遠浅の漁場から、沖合養殖へ進む技術を開発しなければならぬ。本年度中には水試として、沖合養殖の技術の確立をしたいと思います。

マダコは本県内海における重要水族の一つでその増殖には、関係者が従来から意を用い、産卵用たこつぼを毎年投入して積極的に増殖を図っている。本県タコの増殖に大きな効果を挙げてきたのであるが、更にその効果を確実にするには、どうすればよいか。ふ化直後の仔タコは浮遊生活をし、或程度生育して海底に着沈するのであるが、その間の生態が殆んどわかっていない。何を食し、海中を浮遊しながらどの様に分散し、又その間の減耗も甚だしいと思

われるが、その状況も不明である。更に生育して海底に定着するのであるが、この時期まで仔ダコを飼育することができると、漁場に放流しても増殖効果は著るしく上ることは明かであり、又これを飼育養殖することもできよう。本年水試の仕事として、このふ化飼育の研究は大きな課題で、是非とも研究の目的をつけたいと考えている。

海産生物の人工ふ化、採苗——種苗生産——養殖即ち獲る漁業から作る漁業へと進むことは今後の漁業方向であるが、養殖場の設置可能なる場所は、場所的に当然制限をうける。そこで考えることは、瀬戸内海の如き場所は内海全体を、その養殖場と考えることはできないだろうかというのである。定着性魚族、藻類の一大増殖場として、必要種苗を放流し内海漁民が、最高度に利用しうべき海としたいものである。

これがためには資源保護の精神が、更に昂揚していかなければならないと思われる。



漁業今昔

いわしの巻 (13)

平岡安民

水源端漁場

漁業は水ものといわれる通り、なかなか計画どおりにゆかぬものであるが、旋網船団の操業となると最も厄介なものである。

先づどこを泳いでいるかわからぬ魚をさがしてまわるのが大変で、電探などというものなかった頃はカンと視力にたよる外ない。まことに細かいものである。

やっとの事で魚群に出逢っていざ投網となっても網の端につないだ伝馬船をやり放した時、本船の渦流に引かれて忽ち五十米は行き過ぎる。やり直しをする間に魚を見失う。投網終了後伝馬船に接近した時、波が高いと梶が利きにくい。焼玉の機関であるの後進ができなくて、伝馬を本船の下へ敷き込んで、怪我入を出すようなこともある。伝馬を落す時

一寸おくれて網を心持ち広くやったため、大手網を全部やっても伝馬にとどかず、折角はいった魚を逃がしてしまふこともある。

うまくやりまわした、と思うことが三度に一度あれば高度の技術者だと、その人自身自惚れても差支へない。

ガッチリ正面から受けとめて全部網中に収めた。といっても会心の笑をもらすのはまだ早い。冬の魚などいわゆるハシカイやせいわしが少し多くはいると、網を破られる。零下十度の寒夜、合羽の背中がバリバリ凍るとき徹夜で網を修理するなど、考えただけでゾツとするが、漁季中二三回は避けられぬプログラムにはいつている。さりとて少し斜に網を受けて大群を切って取るうなど、考えたら一尾のいわしはいつてくれ

ない。

八十トンから百五十トン、これは岩網を締めつけた頃には正確にわかるのだが、中綱がワイヤにからみついて網を破る、環巻きという恐るべき事故もなく、適当の魚群を巻いた時初めてホツとするのである。

それでもまだ幾多の難関はひかえている。魚群によって性質がちがうもので、やたらに底の網を押しして魚取り部の締め付けが困難なことがあり、ひま取っていると魚が死んでしまう。こうなると、いかなる方法によるも魚取部をしめつけることはできない。捨てようとしても簡単に捨てることはならぬ。アバに大碇を結びつけてそれを海底に沈めるなどいう苦しい細工をせねば、この貴重な犠牲者の重量から我々が逃れる方法はない。

網も破らず魚も死なさず、無事にしめ付けても、かんじんの運搬船が本船にはぐれてしまつて漁場で行方がわからず、あたら漁獲物を海へ流して捨てることもあるし、前回にも書いたように接舷の際運搬船のスクリューで網を破って魚を皆にがす事もある。

采配一本握ってれば、手をぬらすこともなく、半年余り働いて一万円

の稼ぎなど、聞かされると誰でも羨ましがれるのだが、さてやってみるとこれほどつらい仕事はない。クラックシャフトか何ぞのように、一つの機構の中で、いろんな圧力と張力と遠心力と摩擦とを、全身の理解と感覚とで受けとめてゆかねばならぬのである。殊にその力をうけとめるだけの寸法も重量も持たぬ、この細かいクラックは、いつも折れそうにしたりながら、キイキイ音を立てんばかりに発熱しながら辛うじて廻転しているのである。

もはや漁期も半を過ぎて勝敗の数もほぼ明かである。自分の失格鹹首はもはや決定的である。顧問として乗って来るのがどんな人物か知らんが、その人の前へ出たら、いかに未熟者のみじめさをさらけ出すことだらう。

十一月の半ばを過ぎると北西の季節風は強くなる。日が金剛山のかなたに沈み、万象のすがたをあらわすという巨大な峯々、そば立つ巨岩もその輪郭だけをのこして、すべて黒一色に塗りつぶされる頃には、各船は漁をしたのも、せぬのも一日の作業を終えて思い思いの港へ急ぎ散って行った。

このとき十余りの船団が尚あきら

めかねてか、期する所あってか、漁場をうろついていた。もちろん私の船もそのうちにはいつて居た。ネットホーラーを失って後は、鳥が翼をいためたように、しよげていたし、何よりも漁夫たちが手曳きの重労働をきらって、多少サボるようなことになったら大変だとそれを恐れていた私は、意外なものを見た。漁夫らは平然として例の如くのみびりした調子で網を曳いている。

「セーノオヤア、セーノオヤア」という声は依然として悠揚迫らぬものであったし、

「ヤッサントーレ」

「ヤッサントーレ」というかけ声はかなり力がいっている。しよげるとか、力をおとすとかいいう気配は全くないし、さればといいつて機械の代りだから頑張ろうという風もない。

彼等にしたら当然のことである。けれども私はそこに、さすがは大陸人だという感歎じみたものを覚えたものだ。それでも投網回数をできるだけ減らして、むだ骨を折らせまいとする配慮はやはり私を苦しめた。

他船が五回でとるだけのものを、三回でとろうとする苦心は容易なもの

ではない。他船が帰港したあとで決定打を一本ねらうということもなるうというものだ。幸に彼等も私の意中を理解してくれるらしい。

もはやかもめの姿さへ黒く見えるほど、夜のどぼりは海上を包んできたので、かもめの動きをとらえて、これに直感的な推断を加える以外に、魚群を見つける手段はない。このとき運のいいやつか、すぐれた指揮者か一隻が投網したと見るうちに、たちまち大漁旗をへんぼんとひるがえした。こういう時こつそりと大群をしめ上げて独りうまいことをやろう、他船に漁をさせまい、などたくらむケチな漁師は居らぬから、私は海を捨てて都会へなどと考える気にならぬのだ。海の世界には潤達さがある。

我先きにと、この大漁船の前方に投網しはじめた。私は、一か八か運だめしという連中に加わって、魚の移動SSEと見て、夕方であるから一点Sによせて距離は六〇〇米に魚群ありと推定して網を入れた。他船は旗が上がらない、自船も魚の当りがまだない。岩網が殆んど巻き終ろうという頃に漸く魚が廻りだした。当りが遅いということは悪い現象ではない、しかも舷側の電灯の下をま

わる状態から見て百トンほど下らな。これで一日の溜飲は下がった。漁夫らもニコニコで

「旗を上げましょう」と催促している。よし来た、忽ち原色鮮かな旗がするすると巻き上げられる。風はかなり強いが陸岸から二三哩の所なので波は全くない、魚も多からず少なからずという所だ、網台から歓声が上がる、半島人が祝い事の時に踊りながら歌う彼等十八番の

「チンヤ、チンチンナーレ」という景気のない歌声がわき起こった。しかし網を曳きながら、これを合唱するということは全く異例のことだ。手足と全身とで踊りながらうたうのに適したものであるから、網をしめながらこれをやるのは適当でない。にもかかわらず、皆が踊る代りに足踏みでデッキを鳴らし、からだを左右に振りながら、気が狂ったように総員残らず歌い出した。私はなぜ突然に彼等が有頂天になったものか見当がつかず、吹き出しながらも些か驚いていた。しかし彼等にして見ると、もはや鳥も見えず何の目標もない暗がりの中で大群を旋いたというところが、驚嘆すべき大手柄と見えたらしい。そこで一人がやり出すと全員が、これに加わってうかれ出

すという騒ぎになったものと見える。一同が、

「チンヤチンチンナーレ」と合唱すると、この時気の利いたやつが、即興の相の手の文句をつくって一人で声張上げて

「ウリペ、マンゲン、チャーリハ
ンダ」(うちの漁労長はすばらしい)とやる。すると続いて

「チンヤチンチンナーレ」
「ウリペ、オノリ、チエークチャ
パッタ」(我船は今日の一番漁だ)

「チンヤ、チンチンナーレ」

このチンチン踊りに必要とする太鼓や鐘がもろろ船中にないので、その代りにと、一人がワイヤ函の鉄板をガンガン叩いてはやし立てる。

皆が酔ったように、上体をくねらせながら、網を曳いているので、一寸見た所、そんなフザケ半分で網が上がるかといいた位だが、それでも網はどしどし上がって行く。調子に乗った一人の若者は網をほったらかしておいて、デッキの上で、屁っ

びり腰と、ゆうれい型の手つきとでひようきんに踊り出した。ヤンヤの喝采がおこる。五十余人の合唱、鉄板のドラムのひびき、いやはや、大変なさわぎとなった。

「このなまけ者のいわし共め」と

いう船頭のわれ鍋のような罵声も一向に起って来ない。それどころか船頭はニコニコ顔で、おもてからともへ、ともからおもてへと、そのずんぐりしたヒキガエルを連想させるからだを、ゆすりながら愉快げな散歩をくり返し、いとも満足のていである。踊っている若者の後へ近づいた船頭は、その特殊鋼のような厚くて強靱な声帯から出る、われなべ式蛭声をしぼって叫んだ。

「エイ、イヌ、ムチャシキ」
(この馬鹿野郎)

この声を聞くと若者は驚きを誇張して、鉄砲の玉が命中したようにとび上がった。調子にのりすぎた、ピシタ一つは免れぬと恐る恐る船頭の方を偷み見ると、意外にも、ヒキガエルの大きな口から向い歯が見えている。その目は、
おどかしてやったんだ、おどつてもかまわんよ、こう言って居るのだ。

「チンヤ、チンチンナーレ」

若者は合唱に合わせておどりながら、とももの網台の方へ、自分の持場の方へうかれて行った。

筆者随想

自分の書いたものを読むと、私の

場合鏡でわが顔を見るように、その出来のわるさをしみじみ感じる。顔は自分の責任ではないが、文章はあくまで自らの責めを問われるものである。本当はこんな下手な文章を發表することを、ためらわずに居られぬのだ。それにもかかわらず極めて少数の人ではあるが、是非書けとすすめる。読んでくれる人が、少数でもあるにはあるらしい。それなら

ある漁協職員のもの

樂=餓=鬼=帳

18 大漁祈願紀行

うららかな行楽日和、
明石発の観光バス、神戸組と合流し
嵐団長以下一行の車は、
伏見え 伏見え
と風光る阪神国道をつっ走る。

先づ稲荷大社にて大漁祈願、
宮司ののりどのビジネス式と、うしろの賽銭箱に投げ入れられる十円玉の音、パチンコ屋の如く有難さ半減するも、胸にしかと豊漁を祈る。
波のふくれ そは春洋の魚群来、
春よ春 魚群のり来る潮の光(か

ば、下らぬものを書くのをやめるといふ人のまだ現われないのを、せめてものいいわけにして、つづけてゆこうと考えた。読んでくれる人があるといふことは実にありがたいことだ。更に慾をいえば、批評(冷評酷評尚更結構)や、注文をよせて下さる人があれば、多大の感謝をもって聞かせて頂こうと思っている。

(げ)この社は倉稲魂(うがのみたま)神ほか、二神を祀るといふ。
葉桜や朱(あけ)の楼門朱(しゅ)の柱大文字山を右に見て、愈々観山ドライブ・ウェイガイドさんが、この山は京都と滋賀にまたがって在ると説明、

老杉古松に嘆声を発しながら、霊峰延暦寺に到着
開運の鐘を霞の中えつく、
乳色にかすみて 遠し湖(うみ)と山、
のどかな眼下の琵琶湖に感銘を借しまぬ中に、はや眼前の大湖を大津に

みる。

名のみエレガントな月の家山荘

ここが一夜を託す旅の宿、

流れここより 川となりたる志賀

の春

瀬田のせせらぎ 波音に 似て春

の宿

一夜明けて二日につづく快晴

白れんの ほのと 旅心に 触れ

ていし

轉が遠し 朝(あした)の湯にひ

たる

朝食前名僧良弁が、勅旨を奉じて開

いたといわれる古刹、石山寺に詣ず

血のながれ しかと感じぬ 新樹

の香

石山発

若葉におう 瀬田のながれの 渦

巻きて

花よ散る散る蒼穹(そら)の

白さのとく泌みて

やがて湖底となる谷あいの桜映ゆ

宇治に至る

平等院は鳳凰堂拝観

関白頼通が憧れた浄土の壮厳さを、

そのまま現世に出現させたものだ

聞く

老鷲や 阿弥陀如来の 笑み給う

男山で知られる石清水八幡宮参拝

大漁を祈る。

網代争い解け、入札の桜鯛

玉椿 ほたばた落ちる 参道(み

ち)降りる。

春日遅々

大漁祈願の行程もつつがなく終え、

明石まで行くバスで、みなさんにさ

ようならして神戸でおいる。

天候にめぐまれ、幸先のよい日程で

はあった。

四月十八日

19 レジャーは釣で

レジャー・ブームにのるゴールド

ン・ウィークのスタート、

ほくらには関係ないとそっぽをむく

必要はない。

他人のよるこびをよろこべる度量を

養うべきだ、

そして今日はメーデー

労働者の生活のいっさいを、象徴す

る労働時間を短縮し、賃金をふくら

ますために集った幾万の群集、

そこでほくは鼻や水試や先輩のおっ

しやる釣魚センターの夢を画く、

日毎毎の騒音から、せめて一ト日

をのがれて海へ清遊にくる人達を、

サーピス万点の漁民が経営する釣魚

センターえ、気楽に収客出来得ると

すれば、

佐渡オケサじあないが、

彼等は海へ海えとなびいてくるの

も、御時勢に随って夢ではなくなる

だろう。

時代は大きく変わりつつある、

内外ともに、

しかし改革されてゆく種々の発展

は、人類を疲労させる方向にもって

行くような気配が強いように、ほく

には感じられる。

こういう都塵に疲れた人達を健康的

で、しかも経済的なまきに一石二鳥

という、釣に温くむかい入れてやる、

一方阪神間ではレジャーは釣で

〃というようなPRをして、彼等を

誘致する伊豆方面では、女性の釣え

の進出がめざましくなると聞く。

交通がスピード・アップされ、こ

の地が阪神のキャンツリーになれば、

必らずワンサとおしかけてくること

請負いだ。数年後には、この町も世

のながれとともに青年は都会に、

老人は釣魚センターに、

沖え出て漁をする人は壮者に、とい

うように変えてゆくだろう。漁業オ

ンリーで自立してゆく、ほくらの漁

村に漁民がこぞって釣魚センターを

完成をすることが、焦眉の急だと思

う。

そして観光事業は旅館からという

が、旅館のかまえの大きくなるのを

指をくわえて見ているより、少くと

も、

〃海浜の観光は漁業から〃

というレベルえまでもってゆく漁民

のめざめと努力が、当然なされて然

るべしだと思う。

五月一日

第五回船員労働安全衛生

月間について

例年行われております、船員労働安全衛生月間が、本年も来たる六月一日より同月末までを月間として行われます。

この月間は海上における船員の労働安全衛生ということについて、とくにお互が気をつけましょう、という趣旨のものに行われますが、海上で働かれます漁村の皆さんも平素より充分気をつけておられることと思ひますが、この月間を機として更に御注意下さいますようお願いいたします。

お詫び

前号(四月)の記事に、多くさんの誤植がありましたことを深くお詫び致します。(編集部)

兵庫県下における

漁業経営体の構成概報

農林省兵庫統計調査事務所

この概報は昭和三十五年漁業動態調査の結果より取纏めたもので、本調査の漁業経営体とは、三十日以上海面漁業を営んだ漁船を所有する経営体、及び団体経営体の総てである。

経営体の増減

昭和三十五年の総経営体数は、六五八七（瀬戸内海区五四四八で八三%日本海区一一三九七一七%）で、前年より二〇六で三%の減少となっている。これは過去七年間の平均減少率と等しく、又昭和三十四年とは大差がないが、昭和二十八〜三十四年迄の全国平均減少率一%と比較すると相当高くなっており、内海の発展途次にある商工業地帯を控える地域性を反影している。

その減少の主因は淡路海区の敷網対象魚の漁況悪化による着業の減少によるものと考えられる。これらの未着業経営体は、共同組織のものが多く、傾向としても共同組織は漸減しているが、これは「漁業基本問題とその対策」に方向づけられている、協業組織の拡大と相反する結果であり、現在の共同組織のあり方に何等かの欠陥があるのではないかと考えられる。

如実に示していると考えられる。浅海養殖業の殆んどは、のり養殖に占められており、地域的にも播磨海区に集中されている。のり養殖の経営面積は網ひびの全面的採用によって前年よりも減少しているが、収獲効率は上がっている。面積の前年比は、網ひびで一・五倍の増、そだひびは、二二二平方メートルより皆無に近い一三百平方メートルに減少している。のり養殖以外の養殖としては、真珠養殖、魚類養殖があるが、前者は変動が少なく、後者は大規模な経営体が増加したので、経営面積も四〇万平方メートルと前年の約五倍強となっている。

経営体の異動

階層の上昇した経営体は二〇九で、全体の三%であり、そのうち〇〜三屯階層から上位の階層に異動したものが最も多く、次いで無動力階層から上昇したものが多くなっている。これらの上昇した理由は、漁船の大型化（四〇%）隻数増加によるもの（三六%）となっている。

〇〜三屯及び無動力階層からの上昇傾向は現在の所増加しつつあり、又一般的な傾向となりつつあるが、これは漁獲競争の苛烈化と、漁業に生る道を求める漁家の意欲を反影しているものと思われる。

階層の下降した経営体は一二六で三〜五、五〜一〇屯の階層に多くなっており、その理由は隻数減少が殆んど占めている。

したがって、増減、異動の最も激しい階層は、三〜五、〇〜三屯の階層であるが、特に三〜五屯階層は転出入の異動率が継続経営体の二七%に達し、又他の階層の漸減傾向と反して除々に増加しつつある。現在の県下の漁業中心階層は〇〜三屯階層であるが、今後漸次三〜五屯の階層に移行するものと考えられる。

出現消滅経営体

新規経営体は五〇七で総経営体数の八%であった。このうち生産手段である漁船を持ちながら休漁していたものが八〇%あり、これらは今後漁況の悪化等の不利な条件があれば再度休業することも考えられる。

階層別には〇〜三屯が最も多く五〇%を占めている。消滅経営体は七一二で全体の一一%であり、漁船を持ちながら休廃業したものが七五%を占め、又、三十日未満操業の物、実際は漁業をやっているながら消滅として取扱われた経営体が、一〇八で一四%もあった。これらは階層も無動力、〇〜三屯の零細階層なので、新規消滅とも潜在的漁業経営体の異動と考えることが出来る。そしてその総数は年々多少の変動があっても増加していることは、漁況の豊凶、環境の景気変動によって異動する、兼業漁家の増大を物語っていると考えられる。

有動力漁船

総隻数五八六九総屯数一六八二六屯であるが、平均屯数は二、八六屯で前年より僅かに増加している。隻数、屯数とも最も多い階層は、

〇〜三屯階層でこれより上位階層程隻数、屯数とも減少しているが、三〇〜五〇屯階層は中型機船底曳網があるため、一つの山をつくっている。平均屯数の最も高い漁業は、地元漁業では、中型機船底曳網の三三、八屯、二そうまきあくり巾着網

昭和三十六年一月・二月の海面漁業漁獲の概要

農林省兵庫統計調査事務所

昭和三十六年一月の海面漁業による兵庫県の漁獲量は、三六〇五トン、二月は四五三三トンで、前年同月より一月、二月共に三%の増であったが、海区別には、日本海区は一月に八%、二月に一一%減少し、瀬戸内海区は一月に二四%、二月に二三%増加した。

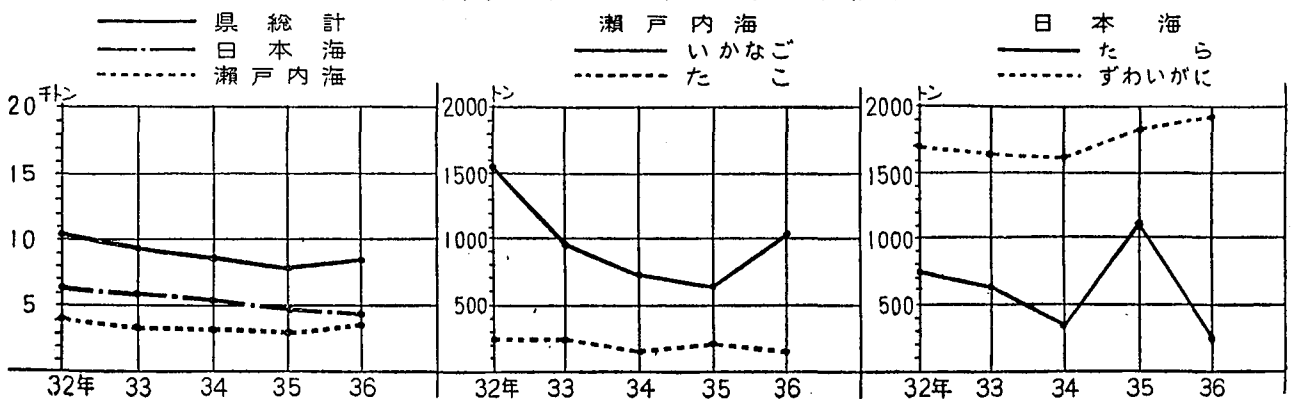
一、二月の日本海側は、中型機船底曳網による漁獲がその主なものであるが、前年同期不振であった「はたはた」は一月三九三トン、二月四六九トンと平年並の漁獲量を示したが、「かれい」と「たら」は前年未だに引続き不漁であった。これがた

の七、三屯その他のまき網、敷網の四、四七の順となっている。内海で重要な漁業である小型機船底曳網は、二、八屯、船曳網三、五屯と比較的小規模な形態となっている。(表一、二、三、四は次の九、十頁に掲載)

め「かに」漁場への出漁回数が多くなり、「かに」は前年同月より、五〜一〇%増加した。

瀬戸内海側は、巾着網による「かたくちいわし」と、いかなごばっちな網および船曳網による。「いかなご」の漁獲が増加し、「あなご」「たこ」は減少した。又前年不振であった、いかなご込瀬網が二月に和泉灘で操業されたが、豊漁のきざしをみせている。(漁獲量の表は十一、十二頁に掲載)

5ヶ年間に於ける1.2月の累積漁獲高



第1表 年度別漁業動態調査経営体数

| 年度 | 階層 | 総数 | 無動力 | 0~3 吨 | 3~5 吨 | 5~10 吨 | 10~20 吨 | 20~30 吨 | 30~50 吨 | 50~100 吨 | 100~200 吨 | 200~005 吨 | 大型定置細 | 小型定置細 | 地曳細 | 浅海養殖 | 全 国 |
|---------|----|-------|-------|-------|-------|--------|---------|---------|---------|----------|-----------|-----------|-------|-------|-----|------|---------|
| 昭和 28 年 | | 8,008 | 2,411 | 4,098 | 536 | 421 | 163 | 31 | 78 | | | | 4 | 132 | 81 | 53 | 251,747 |
| ” 30 年 | | 7,514 | 1,767 | 4,236 | 657 | 363 | 130 | 29 | 75 | 7 | | | 2 | 127 | 50 | 71 | 250,047 |
| ” 31 年 | | 7,452 | 1,573 | 4,226 | 713 | 421 | 120 | 33 | 75 | 12 | | | 2 | 132 | 58 | 87 | 238,113 |
| ” 32 年 | | 7,024 | 1,383 | 4,132 | 688 | 375 | 112 | 32 | 76 | 10 | 3 | | 3 | 110 | 32 | 68 | 236,649 |
| ” 33 年 | | 6,988 | 1,197 | 4,122 | 869 | 271 | 144 | | 76 | | 3 | | 3 | 143 | 18 | 142 | 229,334 |
| ” 34 年 | | 6,793 | 1,247 | 3,835 | 847 | 331 | 139 | 36 | 70 | 13 | 2 | 1 | 4 | 107 | 12 | 149 | 235,492 |
| ” 35 年 | | 6,587 | 1,066 | 3,785 | 863 | 269 | 114 | 39 | 68 | 11 | 1 | 1 | 4 | 104 | 14 | 248 | |

新規経営体

第2表 階層、項目別、新規転廃休業、経営体数

| 項目 | 階層別経営体 | 507 | 172 | 249 | 45 | 6 | 2 | 2 | 1 | | | | | 1 | 3 | 26 |
|-----------|--------|-----|-----|-----|----|---|---|---|---|--|--|--|--|---|---|----|
| 30日になった以上 | 漁船所有 | 121 | 53 | 54 | 4 | | | | | | | | | | | 10 |
| | ”非所有 | 7 | 1 | 1 | 3 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 漁業を営まない | 漁船所有 | 290 | 104 | 156 | 24 | 1 | | | | | | | | | 3 | 2 |
| | ”非所有 | 44 | 2 | 28 | 6 | 2 | | | 1 | | | | | | | 5 |
| その他 | | 26 | 9 | 10 | 2 | | | | | | | | | | | 5 |
| 団体経営体 | | 19 | 3 | | 6 | 2 | 2 | 2 | | | | | | 1 | | 3 |

転廃休業経営体

| 項目 | 階層別経営体 | 713 | 248 | 284 | 56 | 88 | 24 | 1 | 3 | 1 | | | | 3 | 4 | 1 |
|---------|---------|-----|-----|-----|----|----|----|---|---|---|--|--|--|---|---|---|
| 30日未満 | 調査日漁船所有 | 100 | 64 | 33 | 2 | | | | | | | | | 1 | | |
| | ”非所有 | 8 | 3 | 1 | 4 | | | | | | | | | | | |
| 漁業を営まない | ”有 | 328 | 127 | 164 | 19 | 12 | 2 | | | | | | | | 4 | |
| | ”非所有 | 102 | 22 | 61 | 16 | 3 | | | | | | | | | | |
| その他 | | 52 | 31 | 11 | 3 | 2 | 3 | 1 | | | | | | 1 | | |
| 団体経営体 | | 123 | 1 | 14 | 12 | 71 | 19 | | 3 | 1 | | | | 1 | | 1 |

第3表 階層異動経営体数

| 前年度 本年度 | 継 続 経 営 体 (前年度の階層) | | | | | | | | | | | | | | | 新規経営体 | 総 本 年 度 の 経 営 体 数 | | |
|--------------------|--------------------|-------------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------------|-------------|-------------|-----------|--------------|--------------|-------------|-------|---|------------------|-------|
| | 総 数 | 無 動 力 | 動 力 屯 | | | | | | | | | | 大型 定 置 | 小型 定 置 | 地 曳 編 | | | 浅 海 養 殖 | |
| | | | 0~3 | 3~5 | 5~10 | 10~20 | 20~30 | 30~50 | 50~ 100 | 100~ 200 | 200~ 500 | 500 以上 | | | | | | | |
| 継 続 経 営 体 (本年度の階層) | 総 数 | 6,080 | 999 | 3,551 | 791 | 243 | 115 | 35 | 67 | 12 | 2 | 1 | | 4 | 104 | 8 | 148 | 507 | 6,587 |
| | 無 動 力 | 894 | 880 | 9 | | 1 | | | | | | | | | | | 4 | 172 | 1,066 |
| | 動 力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 0~3 | 3,536 | 49 | 3,411 | 52 | 13 | 4 | | | | | | | 4 | 2 | 1 | | 249 | 3,785 |
| | 3~5 | 818 | | 82 | 704 | 26 | 4 | | | | | | | | 2 | | | 45 | 863 |
| | 5~10 | 263 | | 27 | 34 | 193 | 8 | 1 | | | | | | | | | | 6 | 269 |
| | 10~20 | 112 | | 3 | | 10 | 97 | 2 | | | | | | | | | | 2 | 114 |
| | 20~30 | 37 | | | 1 | | 2 | 31 | 3 | | | | | | | | | 2 | 39 |
| | 30~50 | 67 | | | | | | 1 | 64 | 2 | | | | | | | | 1 | 68 |
| | 50~100 | 11 | | | | | | | | 10 | 1 | | | | | | | | 11 |
| | 100~200 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| | 200~500 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 500以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大型定置網 | 4 | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | 4 |
| | 小型定置網 | 103 | | 3 | | | | | | | | | | | 100 | | | 1 | 104 |
| | 地 曳 網 | 11 | 6 | 1 | | | | | | | | | | | | 4 | | 3 | 14 |
| | 浅海養殖 | 222 | 64 | 15 | | | | | | | | | | | | | 143 | 26 | 248 |
| | 転廃休業 経営体 | 713 | 248 | 284 | 56 | 88 | 24 | 1 | 3 | 1 | | | | | 3 | 4 | 1 | | |
| | 前年度の 総経営体数 | 6,793 | 1,247 | 3,835 | 847 | 331 | 139 | 36 | 70 | 13 | 2 | 1 | | 4 | 107 | 12 | 149 | | |

第4表 階層別漁船隻屯数 (有動力)

| 項目 | 階層 | 総 数 | 0~3 | 3~5 | 5~10 | 10~20 | 20~30 | 30~50 | 50~100 | 100~200 | 200~500 | 500以上 |
|-----|----|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|---------|--------|---------|---------|-------|
| 隻 数 | | 5,869隻 | 4,458 | 1,028 | 227 | 76 | 16 | 59 | 4 | | 1 | |
| 屯 数 | | 16,825.9屯 | 7,050.1 | 3,862.6 | 1,518.0 | 1,088.2 | 361.4 | 2,344.6 | 277.1 | | 323.9 | |

昭和36年1月の海面漁獲量 (単位:トン)

| 海区 魚種 | 県 総 計 | | | | 日 本 海 | | | | 瀬 戸 内 海 | | | | |
|-----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|--------|------|
| | 36年 | 35年 | 増減量 | % | 36年 | 35年 | 増減量 | % | 36年 | 35年 | 増減量 | % | |
| 総 計 | 3,605.3 | 3,489.2 | 116.1 | 103 | 2,031.0 | 2,214.7 | △ 183.7 | 92 | 1,574.3 | 1,274.6 | 299.7 | 124 | |
| 魚 | い わ し | 198.2 | 87.7 | 110.5 | 226 | 1.7 | — | 1.7 | — | 196.5 | 87.7 | 108.8 | 224 |
| | あ じ | 2.6 | 3.0 | △ 0.4 | 89 | 0.9 | 2.1 | △ 1.2 | 45 | 1.7 | 0.9 | 0.8 | 193 |
| | さ ば | 1.7 | 0.3 | 1.4 | 574 | 1.7 | 0.3 | 1.4 | 574 | — | — | — | — |
| | ぶ り | 15.0 | 21.2 | △ 6.2 | 71 | 15.0 | 20.2 | △ 5.2 | 75 | 0 | 1.1 | △ 1.1 | 1 |
| | ひ ら め い | 413.2 | 441.5 | △ 28.3 | 94 | 299.3 | 347.0 | △ 47.7 | 86 | 113.9 | 94.5 | 19.4 | 121 |
| | た ら | 58.6 | 460.7 | △ 402.1 | 13 | 58.6 | 460.7 | △ 402.1 | 13 | — | — | — | — |
| | は た は た | 393.4 | 63.0 | 330.4 | 624 | 393.4 | 63.0 | 330.4 | 624 | — | — | — | — |
| | に ぎ す | 14.2 | 30.0 | △ 15.8 | 47 | 14.2 | 30.0 | △ 15.8 | 47 | — | — | — | — |
| | さ め | 7.2 | 1.5 | 5.7 | 478 | 0.5 | 0.5 | △ 0 | 97 | 6.6 | 1.0 | 5.6 | 696 |
| | は も | 7.5 | 0.4 | 7.1 | 1942 | — | — | — | — | 7.5 | 0.4 | 7.1 | 1942 |
| | ま だ い | 9.9 | 7.0 | 2.9 | 141 | 1.3 | 2.7 | △ 1.4 | 48 | 8.6 | 4.3 | 4.3 | 199 |
| | さ わ ら | 0.1 | 0.4 | △ 0.3 | 30 | — | — | — | — | 0.1 | 0.4 | △ 0.3 | 30 |
| | ぼ ら | 28.0 | 20.0 | 8.1 | 141 | 0 | 0 | 0 | 440 | 28.0 | 20.0 | 8.1 | 141 |
| | す ず き | 10.7 | 10.3 | 0.4 | 103 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 190 | 8.7 | 9.3 | △ 0.6 | 94 |
| | 類 | い かな ごと | 180.3 | 154.0 | 26.3 | 117 | — | — | — | — | 180.3 | 154.0 | 26.3 |
| あ な ごと | | 56.9 | 77.9 | △ 21.0 | 73 | 0.3 | 0.3 | △ 0 | 89 | 56.6 | 77.6 | △ 21.0 | 73 |
| その他の魚類 | | 343.8 | 338.1 | 4.7 | 101 | 89.2 | 93.2 | △ 4.0 | 96 | 253.6 | 244.9 | 8.7 | 104 |
| (魚類計) | | 1,740.3 | 1,716.9 | 23.4 | 101 | 878.2 | 1,021.2 | △ 143.0 | 86 | 862.1 | 695.7 | 166.4 | 124 |
| す る め い か | | 93.2 | 167.9 | △ 74.7 | 56 | 93.2 | 167.9 | △ 74.7 | 56 | — | — | — | — |
| 水産動物 | その他のいか | 37.5 | 18.4 | 19.1 | 204 | 1.5 | 3.4 | △ 1.9 | 44 | 36.0 | 15.0 | 21.0 | 240 |
| | た こ | 109.8 | 102.0 | 7.8 | 108 | 13.3 | 10.9 | 2.4 | 122 | 96.4 | 91.1 | 5.3 | 106 |
| | え び | 159.0 | 144.4 | 14.6 | 110 | 54.9 | 53.1 | 1.8 | 103 | 104.1 | 91.3 | 12.8 | 114 |
| | か に | 989.9 | 944.0 | 45.9 | 105 | 974.0 | 914.4 | 32.6 | 104 | 15.9 | 2.6 | 13.3 | 608 |
| | な ま こ | 91.6 | 75.7 | 15.9 | 121 | 0 | — | 0 | — | 91.6 | 75.7 | 15.9 | 121 |
| | その他の水産動物 | 0 | 2.3 | △ 2.3 | 1 | — | — | — | — | 0 | 2.3 | △ 2.3 | 1 |
| | (水産動物計) | 1,481.1 | 1,454.8 | 26.3 | 102 | 1,137.0 | 1,176.7 | △ 39.7 | 97 | 344.1 | 278.1 | 66.0 | 124 |
| 貝 類 | 379.5 | 317.0 | 62.5 | 120 | 15.5 | 16.7 | △ 1.2 | 93 | 364.0 | 300.3 | 63.7 | 121 | |
| 藻 類 | 4.4 | 0.5 | 3.9 | 871 | 0.3 | 0 | 0.3 | 579 | 4.1 | 0.5 | 3.6 | 908 | |

(注) △は減 0は漁獲量50kg未満 (50kg以上は100kgに切上げ)

昭和36年2月の海面漁獲量 (単位：トン)

| 海区 年度 | 県 総 計 | | | | 日 本 海 | | | | 瀬 戸 内 海 | | | |
|-----------------|---------|---------|---------|------------|---------|---------|---------|------|---------|---------|---------|------------|
| | 36年 | 35年 | 増減量 | % | 36年 | 35年 | 増減量 | % | 36年 | 35年 | 増減量 | % |
| 魚種 | 4,533.1 | 4,417.3 | 115.8 | 103 | 2,404.9 | 2,690.1 | △ 285.2 | 89 | 2,128.2 | 1,727.3 | 400.9 | 123 |
| 魚 | | | | | | | | | | | | |
| い わ し | 198.2 | 8.9 | 189.3 | 2238 | — | 0 | △ 0 | — | 198.2 | 8.9 | 189.3 | 2239 |
| あ じ | 0.7 | 0.1 | 0.6 | 518 | 0.5 | 0.1 | 0.4 | 518 | 0.2 | 0 | 0.1 | 517 |
| さ ば | 8.0 | 0.5 | 7.5 | 1643 | 8.0 | 0.5 | 7.5 | 1643 | — | — | — | — |
| ぶ り | 1.1 | 5.0 | △ 3.9 | 21 | 1.0 | 5.0 | △ 4.0 | 20 | 0.1 | 0 | 0.1 | 990 |
| ひ ら め い | 703.6 | 972.1 | △ 268.6 | 72 | 552.4 | 814.8 | △ 262.4 | 68 | 151.2 | 157.3 | △ 6.1 | 96 |
| か れ | 176.9 | 643.1 | △ 466.2 | 28 | 176.9 | 643.1 | △ 466.2 | 28 | — | — | — | — |
| た ら | 469.0 | 109.2 | 359.8 | 430 | 469.0 | 109.2 | 359.8 | 430 | — | — | — | — |
| は た は た | 6.5 | 20.3 | △ 13.8 | 32 | 6.5 | 20.3 | △ 13.8 | 32 | — | — | — | — |
| に ぎ す | 12.9 | 20.9 | △ 8.0 | 62 | 7.7 | 16.2 | △ 8.5 | 48 | 5.2 | 4.7 | 0.5 | 110 |
| さ め | 4.1 | 0 | 4.1 | 202 900 | — | — | — | — | 4.1 | 0 | 4.1 | 202 900 |
| は も | 5.6 | 5.4 | 0.2 | 105 | 0.2 | 1.2 | △ 1.0 | 20 | 5.4 | 4.1 | 1.3 | 130 |
| ま だ い | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| さ わ ら | 17.2 | 13.5 | 3.7 | 127 | 0.1 | 0.1 | 0 | 158 | 17.0 | 13.4 | 3.6 | 127 |
| ぼ ら | 7.4 | 11.2 | △ 3.8 | 66 | 0.5 | 0.6 | △ 0.1 | 84 | 6.9 | 10.6 | △ 3.7 | 65 |
| す ず き | 850.8 | 476.4 | 374.4 | 179 | — | — | — | — | 850.8 | 476.4 | 374.4 | 179 |
| い かな ご | 49.1 | 82.9 | △ 33.8 | 59 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 211 | 48.7 | 82.7 | △ 34.0 | 59 |
| あ な ご | 375.1 | 337.1 | 38.0 | 111 | 110.6 | 90.5 | 20.1 | 122 | 264.5 | 246.6 | 17.9 | 107 |
| そ の 他 の 魚 | 2,885.8 | 2,706.5 | 179.3 | 107 | 1,333.7 | 1,701.8 | △ 368.1 | 78 | 1,552.2 | 1,004.8 | 547.4 | 154 |
| (魚類計) | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 0.8 | 1.8 | △ 1.0 | 42 | 0.8 | 1.8 | △ 1.0 | 42 | — | — | — | — |
| す る め い か | 16.7 | 8.7 | 8.0 | 193 | 1.3 | 0.8 | 0.5 | 168 | 15.4 | 7.9 | 7.5 | 195 |
| そ の 他 の 水 | 65.0 | 118.2 | △ 53.2 | 55 | 14.7 | 15.5 | △ 0.8 | 95 | 50.3 | 102.6 | △ 52.3 | 49 |
| た こ | 166.0 | 174.7 | △ 8.7 | 95 | 61.3 | 63.9 | △ 2.6 | 96 | 104.8 | 110.7 | △ 5.9 | 95 |
| え び | 980.2 | 888.8 | 91.4 | 110 | 966.7 | 885.1 | 81.5 | 109 | 13.5 | 3.7 | 9.8 | 367 |
| か に | 38.1 | 118.7 | 80.6 | 32 | 2.0 | 0 | 2.0 | 3828 | 36.1 | 118.7 | △ 82.6 | 30 |
| な ま こ | 2.0 | 0.8 | 1.2 | 253 | — | — | — | — | 2.0 | 0.8 | 1.2 | 253 |
| そ の 他 の 水 産 動 物 | 1,268.8 | 1,311.7 | △ 42.9 | 97 | 1,046.7 | 967.3 | 79.4 | 108 | 222.0 | 344.4 | △ 122.4 | 64 |
| (水産動物計) | | | | | | | | | | | | |
| 貝 類 | 374.6 | 393.8 | △ 19.2 | 95 | 23.8 | 20.6 | 3.2 | 116 | 350.7 | 373.2 | △ 22.5 | 94 |
| 貝 藻 類 | 4.0 | 5.3 | △ 1.3 | 75 | 0.7 | 0.5 | 0.2 | 155 | 3.2 | 4.8 | △ 1.6 | 67 |

(注) △は減 0は漁獲量50kg未満 (50kg以上は000kgに切上げ)

われらの漁民銀行

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193
但馬支所 香住町中浜頭 香住125

購 買 品 は 漁 連 て

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424—5
明石油槽所 明石市船町 明石3207
富島油槽所 北淡町富島 富島 66
仮屋出張所 淡路町仮屋 仮屋 59

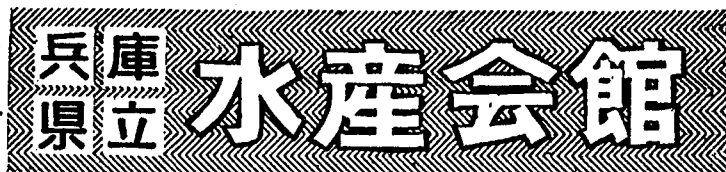
購 買 品 は 系 統 利 用

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 式

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区
新在家町



電話⑤8301(事務所)

電話⑤9563(宿泊所)